

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 前月比

・EU、ロシア、豪州等で増加し、史上最高となる見込み。

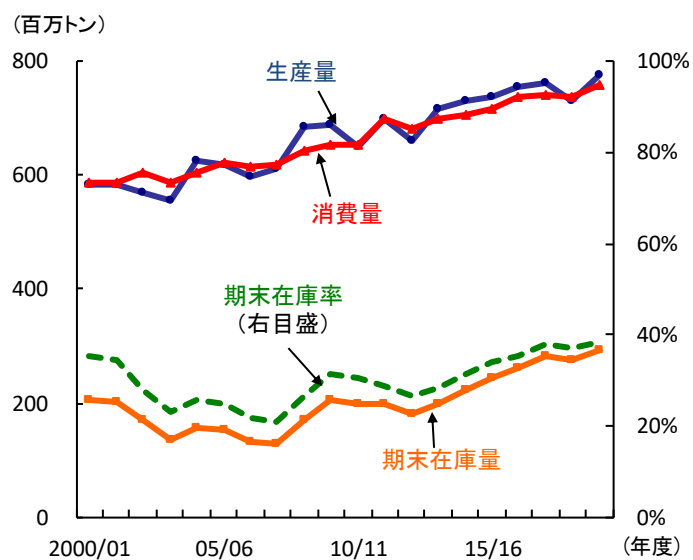
消費量 前年度比 前月比

・EU、中国等で増加し、前年度を上回る見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・豪州、EU 等で増加し、前年度を上回る見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2019.5.10）をもとに農林水産省で作成。

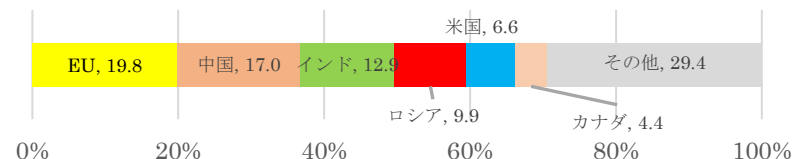
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

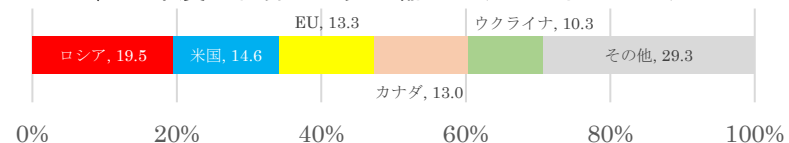
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	762.2	731.6	777.5	-	6.3
消費量	743.0	737.9	759.5	-	2.9
うち飼料用	146.8	139.7	150.3	-	7.6
輸出量	181.8	177.9	184.6	-	3.8
輸入量	179.8	175.2	179.6	-	2.6
期末在庫量	281.3	275.0	293.0	-	6.6
期末在庫率	37.9%	37.3%	38.6%	-	1.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」（10 May 2019）

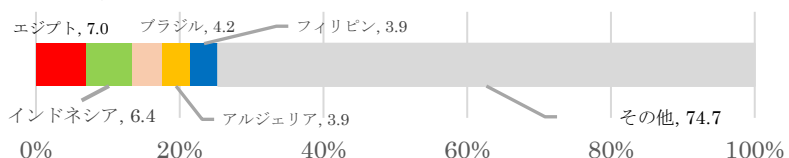
○ 2019/20 年度の世界の小麦の生産量 (777.5 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸出量 (184.6 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸入量 (179.6 百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】

米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.5.28)によれば、5月26日時点の冬小麦の出穂進捗率(主要生産18州)は66%と、前年度同期(71%)及び5年平均(76%)を下回っている。一方、作柄評価は、良～やや良が61ポイントと、前週の66ポイントを下回るものの、前年度同期の38ポイントを上回っている。

また、春小麦は、3月以降の大雪や洪水の影響で作付けが遅れたため、同日時点の発芽進捗率(主要生産6州)は47%と、前年度同期(59%)及5年平均(69%)を下回っている。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、収穫面積が減少するものの、単収が上昇することから、51.6百万トンと前年度より0.6%増加する見込み。内訳は、冬小麦が34.5百万トンと前年度より7.1%増加、デュラム小麦を含む春小麦が17.1百万トンと前年度より10.5%減少する見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、他の輸出国においても生産量が増加し、輸出余力が増加することから、前年度より0.7百万トン減少し24.5百万トン。

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、収穫面積の増加と単収の上昇により、34.5百万トンと前年度より8.5%増加する見込み。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)の5月報告によれば、生産量は、33.9百万トンの見込み。内訳は、デュラム小麦を除く普通小麦が28.7百万トン、デュラム小麦が5.2百万トン。前者の州別の生産量シェアは、サスカチュワン州44%、アルバータ州33%、マニトバ州16%。後者は、サスカチュワン州が84%を占める。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、輸出量は23.7百万トンの見込み。内訳は、デュラム小麦を除く普通小麦は、他の輸出国の輸出余力の増加から19.0百万トン、他方、デュラム小麦は世界の生産量の減少から4.7百万トンに増加する見込み。

小麦－米国

(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.4	51.3	51.6	-	0.6
消費量	29.4	29.2	30.6	-	4.8
うち飼料用	1.4	1.4	2.5	-	80.1
輸出量	24.5	25.2	24.5	-	▲ 2.7
輸入量	4.3	3.8	3.8	-	-
期末在庫量	29.9	30.7	31.1	-	1.2
期末在庫率	55.5%	56.5%	56.4%	-	▲ 0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.20	16.03	15.80	-	▲ 1.4
単収(t/ha)	3.12	3.20	3.27	-	2.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)

小麦－カナダ

(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	30.0	31.8	34.5 (33.9)	-	8.5
消費量	9.4	9.3	9.5 (9.0)	-	2.2
うち飼料用	4.5	4.3	4.5 (4.1)	-	4.7
輸出量	22.0	24.0	24.0 (23.7)	-	-
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	5.9	4.9	6.3 (7.1)	-	29.8
期末在庫率	18.9%	14.6%	18.9% (21.8%)	-	4.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	9.90	10.00 (10.22)	-	1.0
単収(t/ha)	3.34	3.21	3.45 (3.31)	-	7.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(17 May 2019)

デュラム小麦を除く普通小麦 : 冬小麦、春小麦

< ロシア >

【生育・生産状況】

USDA によれば、2019/20 年度の冬小麦は、作付け以降概ね良好な天候に恵まれ、冬枯れ被害が少なかった。ロシア気象センターによれば、5 月下旬現在、南連邦管区と北カフカス連邦管区で出穂～開花期、それ以外のロシア欧州部で分けつ～茎立期を迎えている。また、ロシア農業省によれば、2019/20 年度の春小麦は、5 月 14 日時点の作付面積が、4.37 百万ヘクタールで、作付け進捗率は 35.9%と前年度の 24.4%を上回っている。

USDA によれば、2019/20 年度の小麦生産量は前年度より 7.4%上昇して 77.0 百万トンの見込み。内訳は、冬小麦が単収の上昇と収穫面積の増加により前年度から 10.1%増加し 57.8 百万トン。春小麦は単収が低下したものの、収穫面積が増加したことから前年度と変わらず、19.2 百万トン。

【貿易情報・その他】ロシア農業省によれば、国内在庫が少ないことから、本年 4 月の輸出量は 186 万トンと前年同月の 331 万トンを大幅に下回った。

< EU >

【生育・生産状況】USDA によれば、5 月中旬までの降雨により、フランス、ドイツ、ポーランド東部及び南部で土壌水分が改善された。5 月上旬までに主要産地のフランス、ドイツでは生殖生長期、ポーランドでは栄養生長期、スペイン、ポルトガルでは出穂期から成熟期を迎えるなど、例年より 2～4 週間程度早く生育が進んでいる。2019/20 年度の小麦生産量は、前年度より 12.1%増加して 153.8 百万トンの見込み。

なお、EU 委員会の統合調査局「作柄調査報告」(2019.5.20)によれば、2019/20 年度の小麦の単収は 2019 年 4 月より 0.9 %、5 年平均を 2.0 % 上回る 5.82 トン/ヘクタールの見込みで、同委員会の「Cereals Supply&Demand」(2019.5.24)によれば、小麦生産量は収穫面積の増加と相まって、152.1 百万トンに増加する見込み。

【貿易情報・その他】2019/20 年度は、生産量が増加することから、EU 域外への輸出量が増加する一方、輸入量は減少する見込み。

小麦—ロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	85.2	71.7	77.0 (79.5)	-	7.4
消費量	43.0	40.5	40.5 (43.1)	-	-
うち飼料用	20.0	18.0	18.5 (19.6)	-	2.8
輸 出 量	41.4	37.0	36.0 (35.2)	-	▲ 2.7
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.4)	-	-
期末在庫量	12.0	6.7	7.7 (11.7)	-	14.9
期末在庫率	14.3%	8.7%	10.1% (14.9%)	-	1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.37	26.34	26.50 (27.30)	-	0.6
単収(t/ha)	3.11	2.72	2.91 (2.91)	-	7.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
IGC 「Grain Market Report」(30 May 2019)

小麦—EU

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	151.1	137.2	153.8 (152.1)	-	12.1
消費量	130.4	123.1	128.0 (126.7)	-	4.0
うち飼料用	58.0	52.0	56.5 (53.0)	-	8.7
輸 出 量	23.3	24.0	27.0 (26.6)	-	12.5
輸 入 量	5.8	5.8	5.5 (5.1)	-	▲ 5.2
期末在庫量	14.0	9.9	14.2 (16.7)	-	43.4
期末在庫率	9.1%	6.7%	9.2% (10.9%)	-	2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.16	25.70	26.50 (26.22)	-	3.1
単収(t/ha)	5.78	5.34	5.80 (5.8)	-	8.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(10 May 2019)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(24 May 2019)

< 中国 >

【生育・生産状況】

中国中央气象台によれば、2019/20年度の冬小麦は、河北省、河南省等では、気温が平年並からやや低かったものの、大部分が開花期に入っている。四川省、重慶市等では降雨に恵まれ乳熟期から成熟期となっている。新疆西部等では節間伸長期に入っている。同气象台によれば、作柄については、中国全土の冬小麦の一、二類苗(※)の比率はそれぞれ22%、73%とされている。

2019/20年度の春小麦は、黒竜江省、内モンゴル東部では分けつ期、内モンゴル東南部、寧夏省等で節間伸長期から穂孕み期に入っている。なお、中国農業農村部によれば4月30日現在、春小麦の作付進捗率は63.1%に達している。

中国糧油情報センターによれば、2019/20年度の生産量は、前年度より作付面積は減少するものの、単収が上昇することから132.0百万トンと前年度より0.4%増加する見込み。

< 豪州 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度は、クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州北部で、5月初旬に降雨があったものの、それ以降は乾燥天候が続いており、冬小麦の初期生育のために降雨が必要な状況である。また、ウエスタンオーストラリア州では、前年度同様5月の降水量が平年を下回っており、小麦の生育が遅れている。

2019/20年度の実産量については、小麦価格の上昇による収穫面積の増加や、単収の上昇により、22.5百万トンと前年度より30.1%増加する見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、生産量が干ばつ被害のあった前年度から回復する見込みから、13.5百万トンと前年度より35.0%増加する見込み。

なお、USDA「Grain」(2019.5.10)によれば、豪州の4月の輸出価格は、3月より下落したものの、干ばつによる輸出余力の低下により260ドル/トンと、米国の201ドル/トン、カナダの253ドル/トン、黒海地域の216ドル/トンより依然高い。

小麦—中国

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	131.4	132.0 (131.2)	-	0.4
消費量	121.0	125.0	128.0 (127.9)	-	2.4
うち飼料用	17.5	20.0	21.0 (20.0)	-	5.0
輸 出 量	1.0	1.2	1.3 (1.2)	-	8.3
輸 入 量	4.0	3.5	3.5 (3.6)	-	-
期末在庫量	131.3	140.0	146.2 (127.2)	-	4.4
期末在庫率	107.6%	110.9%	113.1% (98.5%)	-	2.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.51	24.27	24.10 (24.00)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	5.48	5.42	5.48 (5.47)	-	1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
IGC 「Grain Market Report」(30 May 2019)

※一類苗: 生育が正常な苗、二類苗: 通常の苗よりやや小さい苗
三類苗: 病気の苗、弱い苗。

小麦—豪州

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	21.3	17.3	22.5 (22.9)	-	30.1
消費量	7.5	9.2	8.5 (8.0)	-	▲ 7.6
うち飼料用	4.0	5.7	5.0 (4.4)	-	▲ 12.3
輸 出 量	13.9	10.0	13.5 (14.5)	-	35.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	-
期末在庫量	5.9	4.1	4.8 (4.9)	-	15.8
期末在庫率	27.5%	21.5%	21.7% (22.0%)	-	0.2

(参考)

収穫面積(百万ha)※	12.25	10.20	12.00 (12.10)	-	17.6
単収(t/ha)	1.74	1.70	1.88 (1.89)	-	10.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
IGC 「Grain Market Report」(30 May 2019)

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 前月比 **—**

・米国、ブラジル、EU 等で増加し、前年度を上回る見込み。

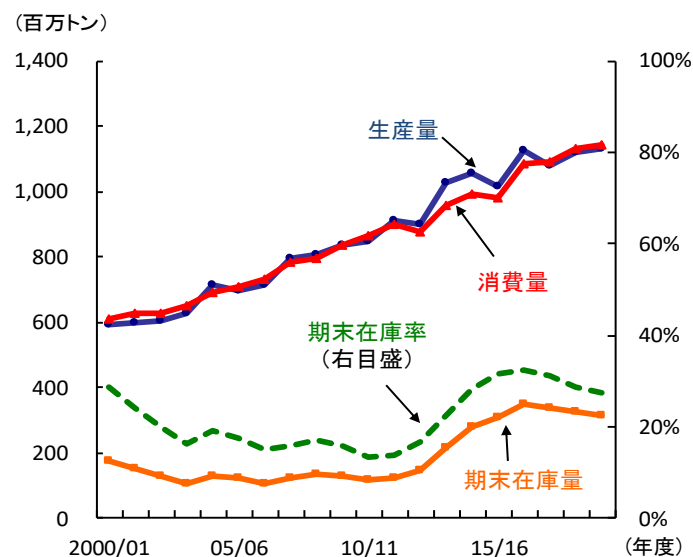
消費量 前年度比 前月比 **—**

・米国、中国等で増加し、前年度を上回る見込み。

輸出量 前年度比 前月比 **—**

・ブラジル、アルゼンチン、ロシア等で増加し、前年度を上回る見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比 **—**



資料：USDA「PS&D」(2019.5.10)をもとに農林水産省にて作成

◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

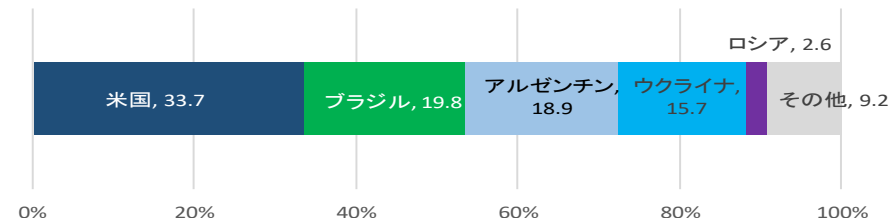
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,078.0	1,119.0	1,133.8	—	1.3
消費量	1,090.1	1,132.3	1,145.0	—	1.1
うち飼料用	672.9	699.7	705.1	—	0.8
輸出量	148.7	170.3	171.6	—	0.8
輸入量	149.8	164.0	167.1	—	1.9
期末在庫量	339.3	325.9	314.7	—	▲ 3.4
期末在庫率	31.1%	28.8%	27.5%	—	▲ 1.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 May 2019)

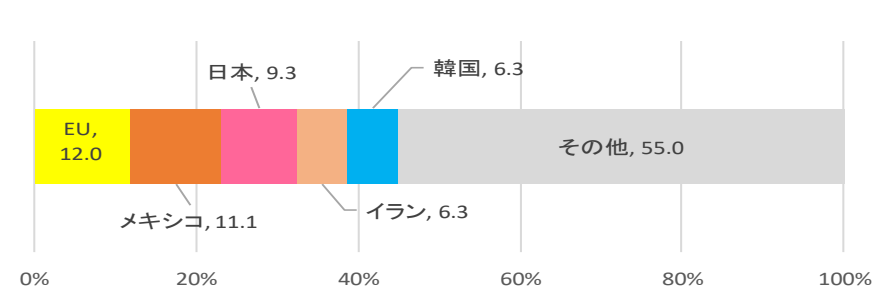
○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの生産量(1133.8 百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸出量(171.6 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸入量(167.1 百万トン)



とうもろこし－米国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	371.1	366.3	381.8	—	4.2
消費量	314.0	309.9	315.0	—	1.6
うち飼料用	134.7	134.6	138.4	—	2.8
エタノール用等	142.4	138.4	139.7	—	0.9
輸 出 量	61.9	58.4	57.8	—	▲ 1.1
輸 入 量	0.9	0.9	0.9	—	—
期末在庫量	54.4	53.2	63.1	—	18.6
期末在庫率	14.5%	14.5%	16.9%	—	2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.48	33.48	34.56	—	3.2
単収(t/ha)	11.08	11.07	11.05	—	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)

(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.5.28)によれば、断続的に続く降雨により、5月26日時点で、作付け進捗率が、主要18州において58%と、前年度(90%)及び過去5年平均(90%)と比べて作付けが遅れている。このため、発芽率も、主要18州平均で32%であり、前年度(69%)及び過去5年平均(69%)より遅れている。特に、主産地の1つであるイリノイ州での作付け進捗率は35%(過去5年平均95%)と、遅れが目立つ。

ただし、USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前年度を4.2%上回る381.8百万トンの見込み。3月の作付意向面積調査において、とうもろこし作付面積が前年度を上回ったため。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の米国の消費量は、飼料用、食用・種子用、エタノール用ともに、前年度より増加し、全体で1.6%増加の315.0百万トンの見込み。なお、米国産牛肉、豚肉の輸出が増加する見込みであることから、飼料需要が伸びている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出货量については、対前年度比で1.1%減となる57.8百万トンの見込み。これは、他の輸出国においても、生産量が増加し、輸出余力が増加するためである。なお、4月の輸出検証高(489万トン)では、我が国向けが最も多く(159万トン)、続いてメキシコ(136万トン)、コロンビア、韓国、台湾向けである。

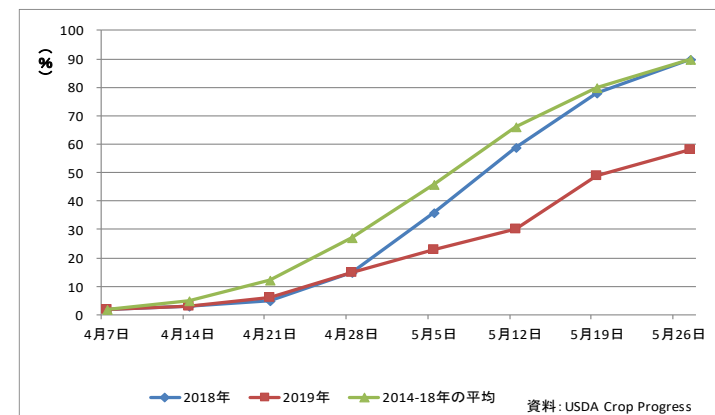
また、降雨による作付け遅れにより、5月末から、とうもろこしの輸出価格、シカゴ相場の先物価格が上昇している。(詳細は、今月の「注目情報」参照)

米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

主要18州における作付進捗率の推移



資料：USDA Crop Progress

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前年度を1.0%上回る101.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社（Conab）月例報告（2019.5.9）によれば、2018/19年度のとうもろこし（夏冬の合計）の作付面積は17.2百万ヘクタールの見込み。

2018/19年度の実績は95.3百万トンの見込みであり、うち、夏とうもろこしは26.1百万トン（前年度比2.7%減）、冬とうもろこしは69.1百万トン（前年度比28.3%増）である。Conabによると、生産の主体である冬とうもろこしの作付面積拡大により、とうもろこし全体の生産量は、過去2番目に多い。（p.16 クロップカレンダー参照）

【需給状況】Conabによれば、夏とうもろこし収穫が早く、冬とうもろこし生育も順調であることから、国内価格の低下が続いている。中南部の多くの州では、政府が保障する最低価格に近づいている。また、国内の主要消費先である養鶏農家は、十分な在庫を確保している状態である。

【貿易情報・その他】ブラジルの貿易統計によると、4月の輸出量は43.6万トンで、主な輸出先は、イラン、ベトナムである。1～4月累計は703.8万トン。ブラジル農業省によると、東南アジア向け輸出量が伸びており、2019年1～2月を2018年と比較すると、ベトナム向けは6.4倍、マレーシア向けは2.5倍である。

< 中国 >

【生育・生産状況】中国中央气象台によれば、2019/20年度については、4月に入り、各地で作付けが開始され、4月30日時点における作付進捗率は、例年並の37.9%である。中国西北部の新疆地区・甘粛省、黄河流域の河北省・河南省等では十分な降雨により、土壌水分が良好であった。一方、東北部の吉林省の一部では、降雨が少なかった。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の実績は279.0百万トンの見込み。輸入とうもろこし価格が安いことから、輸入が増加する見込み。

【貿易情報・その他】中国の貿易統計によれば、1～4月の輸入量は164.6万トンであり、うち9割以上がウクライナ産である。

とうもろこし-ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割）

（単位：百万トン）

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	82.0	100.0	101.0 (96.6)	—	1.0
消費量	64.5	66.5	69.5 (3.4)	—	4.5
うち飼料用	55.0	56.0	58.0 (5.2)	—	3.6
輸 出 量	25.1	32.0	34.0 (66.8)	—	6.3
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.3)	—	—
期末在庫量	7.3	9.8	8.3 (7.4)	—	▲ 15.3
期末在庫率	8.2%	10.0%	8.0% (10.5%)	—	▲ 1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.60	17.50	18.10 (17.50)	—	3.4
単収(t/ha)	4.94	5.71	5.58 (5.52)	—	▲ 2.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
IGC 「Grain Market Report」(30 May 2019)

とうもろこし-中国

（単位：百万トン）

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	259.1	257.3	254.0 (257.3)	—	▲ 1.3
消費量	263.0	275.0	279.0 (286.6)	—	1.5
うち飼料用	187.0	192.0	190.0 (184.0)	—	▲ 1.0
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	—	—
輸 入 量	3.5	5.0	7.0 (4.5)	—	40.0
期末在庫量	222.5	209.8	191.8 (195.9)	—	▲ 8.6
期末在庫率	84.6%	76.3%	68.7% (68.3%)	—	▲ 7.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.18	42.40	42.13 (42.13)	—	▲ 0.6
単収(t/ha)	5.97	6.11	6.11 (6.11)	—	—

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
IGC 「Grain Market Report」(30 May 2019)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 —

・主産国の中国、インド等の減少により、前年度を下回る見込み。

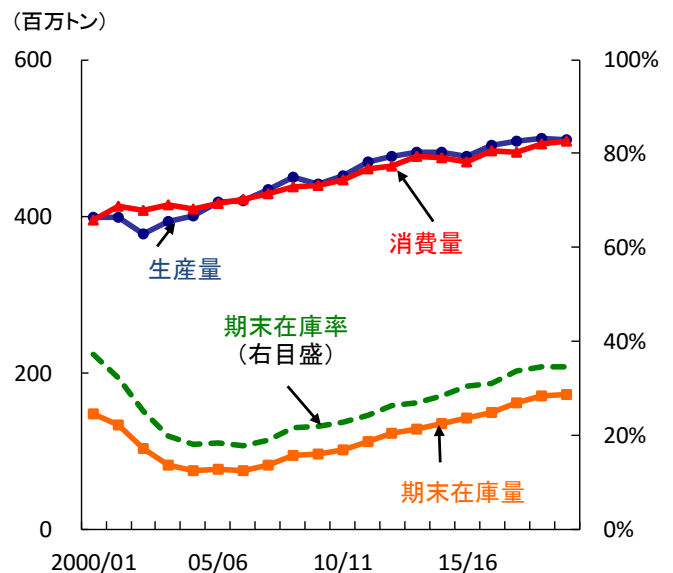
消費量 前年度比 ↑ 前月比 —

・主要消費国のインド、中国等の増加により、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 —

・米国等の増加により、前年度を上回る見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 —



資料：USDA 「PS&D」 (2019. 5. 10) をもとに農林水産省にて作成

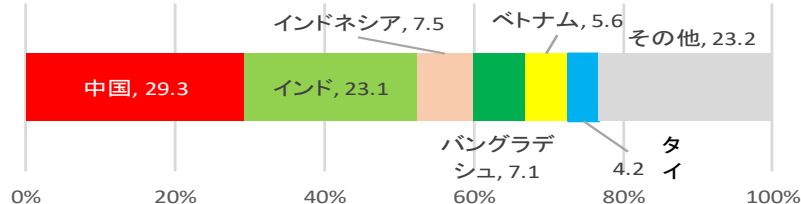
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

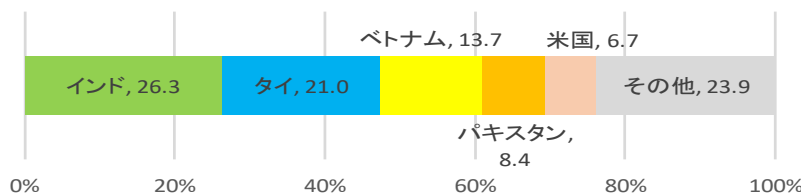
年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	495.0	499.9	498.4	—	▲ 0.3
消費量	482.6	492.0	496.1	—	0.8
輸出量	47.1	46.7	47.6	—	1.9
輸入量	46.8	44.2	45.0	—	1.7
期末在庫量	162.1	169.9	172.2	—	1.4
期末在庫率	33.6%	34.5%	34.7%	—	0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (10 May 2019)

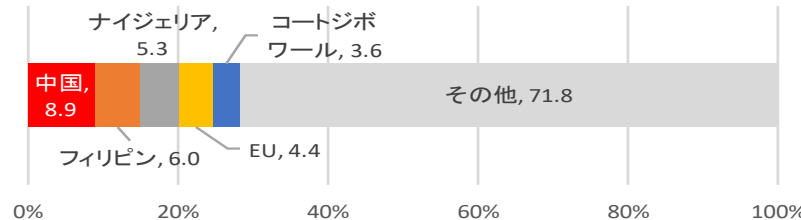
○ 2019/20 年度 世界の米の生産量 (498.4 百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出量 (47.6 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量 (45.0 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】

米国農務省 (USDA) の「Crop Progress」(2019.5.28)によれば、4月から断続的に続く降雨により作付開始が遅れ、作付進捗率は、生産州全体で84%となっており、過去5か年平均に比べ、12ポイント遅れている。このため、発芽進捗率は、生産州全体で63%となっており、過去5か年平均に比べ、20ポイント遅れている。生産量は、対前年度比2.7%減の6.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は豊富な供給量と競争力のある価格により対前年度比8.8%増の3.2百万トンとなり、メキシコ、中央アメリカ、南米北部で市場シェアを取り戻すと予想されている。輸入量は前年度と同じ0.9百万トンの見込み。輸入の多くは南アジア及び東南アジアの香米となる見込み。

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

< インド >

【生育・生産動向】

現地情報によれば、6月以降、雨季(カリフ)の作付けが本格化。単収は前年度比で増加するものの、収穫面積が減少することから、生産量は対前年度比0.9%減の115.0百万トンの見込み。

なお、2018/19年度の乾季米の収穫が東部のアッサム州と西ベンガル州の一部を除いて開始され、インド南部ではすでに収穫が終了した。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、引き続き同年度の生産量が消費量を上回ることから前年度と同じ12.5百万トンを維持し、9年連続で世界最大の輸出国となる見込み。

インド消費者問題・食料・公的分配省によれば、前年度が豊作となったことから4月の政府備蓄量は29.4百万トンと前年同月(24.9百万トン)を大きく上回っている。

インドでは、雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

米—米国

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.7	7.1	6.9	—	▲ 2.7
消費量	4.3	4.3	4.5	—	3.7
輸 出 量	2.8	3.0	3.2	—	8.8
輸 入 量	0.9	0.9	0.9	—	—
期末在庫量	0.9	1.7	1.9	—	10.0
期末在庫率	13.2%	23.5%	24.4%	—	0.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.15	—	▲ 2.5
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.63	—	0.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)

米—インド

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	112.9	116.0	115.0 (117.5)	—	▲ 0.9
消費量	98.8	101.1	102.0 (102.3)	—	0.9
輸 出 量	12.0	12.5	12.5 (12.4)	—	—
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	—	—
期末在庫量	22.6	25.0	25.5 (28.2)	—	2.0
期末在庫率	20.4%	22.0%	22.3% (24.6%)	—	0.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.79	44.50	44.00 (44.25)	—	▲ 1.1
単収(もみt/ha)	3.87	3.91	3.92 (2.66)	—	0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
IGC 「Grain Market Report (30 May 2019)」 (単収は精米t/ha)

<ベトナム> **北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培**

【生育・生産動向】主産地のメコンデルタでは、例年より早期に前年度の冬春作の収穫を終え、夏秋作の作付けがほぼ完了している。USDA によれば、2019/20 年度の生産量は、単収の増加により対前年度比1%増の28.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】5月の国内価格は、主要生産地において全体的に価格が低下しており、対前年同月比で7~12%低下している。

一方、2019年4月の輸出価格は、インディカ精米（碎米5%）は3月（347ドル/トン）から上昇し、365ドル/トン。2019年1~4月の輸出量は、中国、インドネシア向け輸出の減少により2.1百万トンと対前年同期比（2.2百万トン）で5.1%減となっているが、インディカ精米価格の下落により輸出金額では前年同期比18.8%減となり、輸出業者や国内の米農家の経営に影響を与えている。

<タイ> **夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】USDA によれば、2019/20 年度の実績は、収穫面積及び単収が増加することから対前年度比1.8%増の21.1百万トンの見込み。なお、現地情報によれば、例年5月中旬から雨季が始まるが、中部及び北部の主産地では4月中旬以降高温の上、雨が不足しているため、2019/20 年度の雨季作への影響が懸念される。

一方、2018/19 年度の2019年2月から10月まで続く（3~4月が最盛期）乾季作の収穫面積は、特に東北部の灌漑施設の利用が困難な地域でどうもろこし生産へ転換する農家が多かったことから、対前年度比で3.4%減少した。

【貿易情報・その他】2019年1~3月のタイ産米の輸出量は、ベトナム、インド、中国との競争激化、パーツ高等により、前年同期比13.5%減の240.9万トンとなった。主な輸出先は、ベナン（40.4万トン）、フィリピン（23.9万トン）である。

5月22日時点のタイ産米（100%2等）の輸出価格は423ドル/トンで、ベトナム産より1~2割程度割高のため、5月以降安いベトナム産の新米が国際市場に出回っており、

米-ベトナム

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	27.7	27.7	28.0 (29.3)	—	1.0
消費量	21.5	21.5	22.0 (22.9)	—	2.3
輸出量	6.6	6.5	6.5 (6.7)	—	-
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	—	-
期末在庫量	1.0	1.2	1.1 (3.6)	—	▲ 8.7
期末在庫率	3.7%	4.1%	3.7% (12.2%)	—	▲ 0.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.65	7.55	7.50 (7.65)	—	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	5.79	5.87	5.97 (3.87)	—	1.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 May 2019)

IGC「Grain Market Report (30 May 2019)」(単収は精米t/ha)

米-タイ

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	20.6	20.7	21.1 (21.0)	—	1.8
消費量	11.0	10.8	10.9 (10.6)	—	0.9
輸出量	11.1	10.0	10.0 (10.4)	—	-
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	—	-
期末在庫量	3.0	3.2	3.6 (3.5)	—	14.2
期末在庫率	13.6%	15.2%	17.3% (16.7%)	—	2.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.76	10.96	11.07 (10.80)	—	1.0
単収(もみt/ha)	2.90	2.86	2.89 (1.94)	—	1.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 May 2019)

IGC「Grain Market Report (30 May 2019)」(単収は精米t/ha)

今後しばらくはタイ産の需要は減退すると予想されている。

< 中国 >

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

【生育・生産動向】2019/20年度二期作早稲の生育は、5月上旬現在、南部の産地で分げつ期～節間伸長期に入り、天候に恵まれ、良好に生育している。北部の一期作稲は育苗が進んでいる。USDAによれば、2019/20年度の生産量は、大豆への作付転換政策の影響で収穫面積及び単収ともに減少することから対前年度比1.7%減の146.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019年1～4月の輸入量は、在庫の積み上がりから前年同期比25%減の84.0万トン。主要輸入先は、パキスタン(37%)、タイ(33%)、カンボジア(13%)。一方、輸出量は前年同期比65%増の83.0万トン。主要輸出先は、エジプト(22%)、コートジボワール(15%)、トルコ(13%)。これは、特に中粒種の輸出価格が米国や豪州に比べ約半額となっていることから、価格を重視するアフリカや中東の輸入国にとって魅力的な選択肢となっているためである。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」(4月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、春節需要のピークを過ぎたことから、それぞれ3,740元/トン、4,060元/トン、4,100元/トンと前月と比べ、やや下落した。

米—中国

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	148.9	148.5	146.0 (147.4)	—	▲ 1.7
消費量	142.5	144.3	145.0 (146.1)	—	0.5
輸 出 量	1.4	2.2	3.0 (2.7)	—	36.4
輸 入 量	5.5	4.0	4.0 (4.0)	—	—
期末在庫量	109.0	115.0	117.0 (100.8)	—	1.7
期末在庫率	75.8%	78.5%	79.1% (67.8%)	—	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	30.00 (29.60)	—	▲ 0.6
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	6.95 (4.95)	—	▲ 1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
IGC 「Grain Market Report (30 May 2019)」 (単収は精米t/ha)

II 油糧種子

1 大豆

(1)国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 —

・ブラジルで増加するものの、米国、アルゼンチン等で減少し、前年度を下回る見通し。

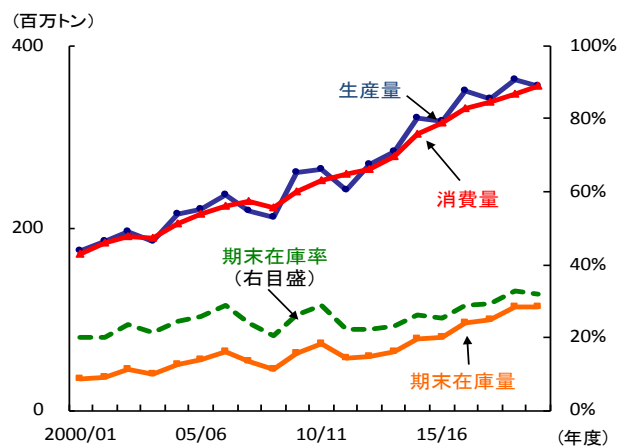
消費量 前年度比 ↑ 前月比 —

・アルゼンチン等で増加し、前年度を上回る見通し。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 —

・ブラジルで減少するものの、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回る見通し。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 —



資料：USDA「PS&D」（2019.5.10）をもとに農林水産省で作成。

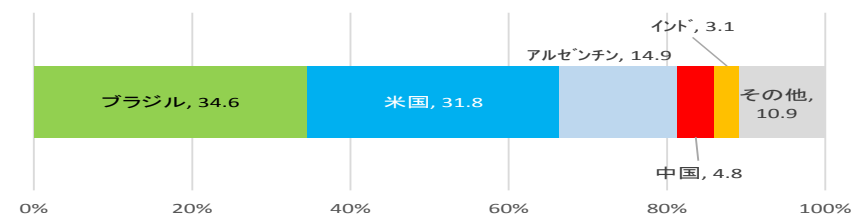
◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

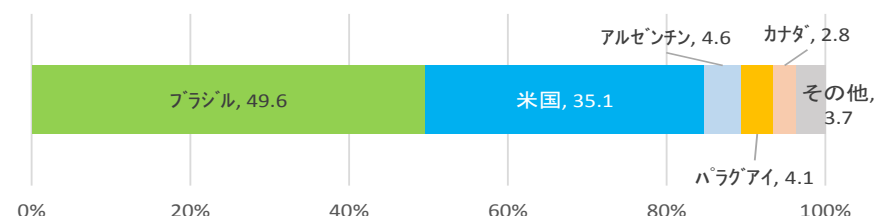
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	341.5	362.1	355.7	—	▲ 1.8
消費量	338.6	347.3	355.4	—	2.4
うち搾油用	295.1	301.6	308.2	—	2.2
輸出量	153.0	150.3	151.2	—	0.6
輸入量	152.9	149.6	150.8	—	0.8
期末在庫量	99.1	113.2	113.1	—	▲ 0.1
期末在庫率	29.3%	32.6%	31.8%	—	▲ 0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 May 2019)

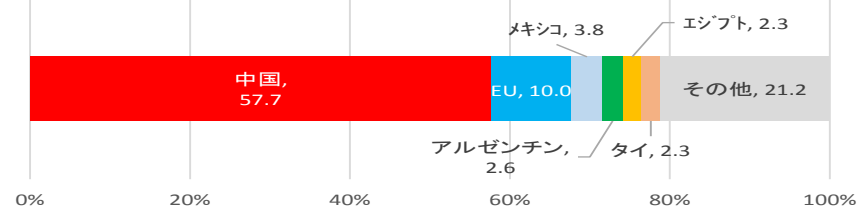
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量(355.7 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量(151.2 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量(150.8 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2019/20年度の生産量は、作付面積の減少により前年度より8.7%減少の113.0百万トンの見通し。「Crop Progress」（2019.5.28）によると、主要18州における作付け進捗率は29%（前年度は74%、過去5年平均は66%）で、中西部での降雨により作付けが遅れている。

なお、USDAは、5月23日、米中貿易摩擦の影響を緩和するため、本年度も大豆を含む農作物を対象に、160億ドルの農業者支援を講じる旨発表した。具体的な内容については、今後示される予定。

【需要動向】2019/20年度の搾油用消費量は、国内価格が低く、搾油マージンが良好な状態が続いていることから、前年度より0.7%増加の57.6百万トンの見込みである。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、前年度より9.9%増加の53.1百万トン。輸出が減少した2018/19年度からの回復が見込まれているものの、過去最大であった2016/17年度（59.0百万トン）に比べれば、低水準である。

5月2日までの2019年累計輸出検証高は、合計15.0百万トンであり、内訳は中国（5.5百万トン）、メキシコ（1.6百万トン）の順である。

米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

大豆－米国

(単位:百万トン)

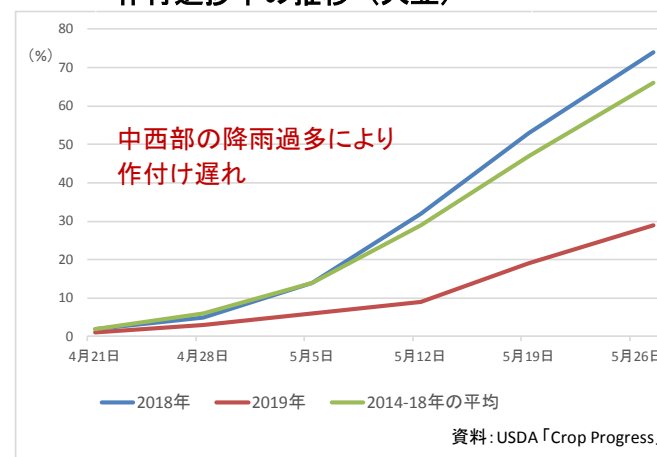
年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	123.7	113.0	—	▲ 8.7
消費量	59.0	60.7	61.1	—	0.7
うち搾油用	55.9	57.2	57.6	—	0.7
輸出量	58.0	48.3	53.1	—	9.9
輸入量	0.6	0.5	0.5	—	17.4
期末在庫量	11.9	27.1	26.4	—	▲ 2.5
期末在庫率	10.2%	24.9%	23.1%	—	▲ 1.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	36.24	35.66	33.92	—	▲ 4.9
単収(t/ha)	3.31	3.47	3.33	—	▲ 4.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（10 May 2019）

作付進捗率の推移（大豆）



資料：USDA「Crop Progress」

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前年度から5.1%増加し、史上最高の123.0百万トンの見込み。本年9月以降に作付けが開始される。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前年度より2.5%増加し46.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前年度より4.5%減少の75.0百万トンとなるものの、依然として世界の大豆輸出量の49.6%を占め、世界第1位のシェアとなる見込み。

2019年4月の輸出量10.1百万トンのうち、70%が中国向け(7.1百万トン)であった。その他、イラン、タイ等にも輸出されている。米国ドルに対するレアル安により、中国、タイをはじめとするアジア向け輸出が好調である。

ブラジルのクロープカレンダー (2018/19年度) (中部から南部)

2018/19年度の大豆は、例年より早い2018年9月に作付けを行い、2019年2月には収穫が終了した。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2018/19年度	2018年												2019年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオグランデス州等												収穫 26.1(百万t)								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 17.3												作付 12.3								
大豆	マトグロソ州、パラナ州等												作付 5.0(百万ha)								
													収穫 114.3								
													収穫夏冬計 95.3								
													収穫 69.1								
													早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種								

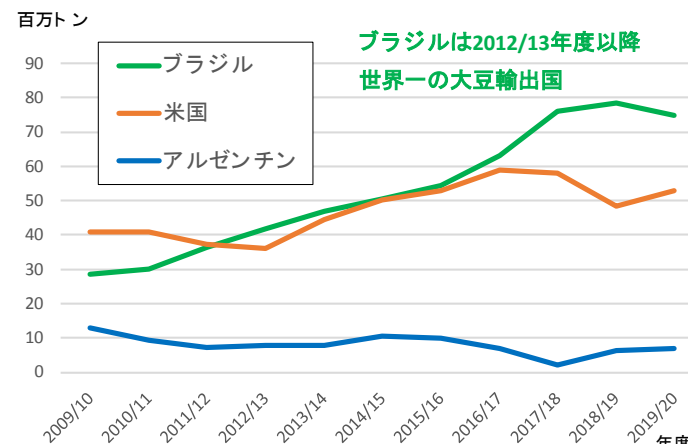
資料: CONAB 穀物レポート(2019.5.9)

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	122.0	117.0	123.0 (121.0)	-	5.1
消費量	46.5	45.4	46.5 (…)	-	2.5
うち搾油用	44.5	42.7	43.8 (…)	-	2.5
輸出量	76.2	78.5	75.0 (…)	-	▲ 4.5
輸入量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	33.3
期末在庫量	32.7	26.0	27.7 (…)	-	6.5
期末在庫率	26.7%	21.0%	22.8% (…)	-	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.15	36.10	36.90 (36.80)	-	2.2
単収(t/ha)	3.47	3.24	3.33 (3.29)	-	2.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(17 May 2019)



資料: 米国農務省「PS&D」のデータをもとに農林水産省にて作成

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前年度より13.7%減少の6.3百万トンの見込み。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)によれば、2019/20年度の生産量は6.5百万トンの見込み。平原三州の4月の乾燥により、作付面積が減少すると予想されている。

【需給動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、搾油需要が減少しているため、前年度より2.6%減少の2.6百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産量減少と他の輸出国の輸出余力が増加することから、前年度より21.3%減少の4.3百万トンの見込み。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、5.4%減少の53.0百万トン。現在、収穫期を迎えている2018/19年度の見込みである。なお、ブエノスアイレス穀物取引所週報(2019.5.30)によれば、2018/19年度の収穫は、90.7%で終了した。

【需給動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、搾油需要が増加し、前年度より6.6%増加の52.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産量は減少するものの、潤沢な在庫から、前年度より11.1%増加の7.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国内で搾油した後、大豆油は、インド、ペルー、エジプト等に、大豆粕は、畜産、養魚用としてベトナム、インドネシア等に輸出されている。

大豆－カナダ

(単位:百トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.7	7.3	6.3 (6.5)	—	▲ 13.7
消費量	2.9	2.7	2.6 (2.5)	—	▲ 2.6
うち搾油用	1.9	2.0	1.9 (1.9)	—	▲ 5.0
輸 出 量	4.9	5.4	4.3 (4.5)	—	▲ 21.3
輸 入 量	0.5	0.8	0.8 (0.4)	—	—
期末在庫量	0.6	0.6	0.9 (0.6)	—	35.3
期末在庫率	8.1%	7.9%	12.5% (13.8%)	—	4.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.94	2.55	2.20 (2.27)	—	▲ 13.7
単収(t/ha)	2.63	2.86	2.86 (2.87)	—	—

資料: USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」(17 May 2019)

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.8	56.0	53.0 (56.0)	—	▲ 5.4
消費量	43.6	48.9	52.2 (…)	—	6.6
うち搾油用	36.9	42.0	45.0 (…)	—	7.1
輸 出 量	2.1	6.3	7.0 (…)	—	11.1
輸 入 量	4.7	6.4	3.9 (…)	—	▲ 38.6
期末在庫量	23.8	30.9	28.7 (…)	—	▲ 7.3
期末在庫率	51.9%	56.0%	48.4% (…)	—	▲ 7.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	17.10	17.50 (17.30)	—	2.3
単収(t/ha)	2.32	3.27	3.03 (3.05)	—	▲ 7.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(17 May 2019)

< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前年度より6.9%増加の17.0百万トンの見込み。これは、中国国内で、大豆に補助金を出す生産奨励が行われているため、作付面積が前年度より10.3%増加したためである。

なお、中国糧油情報センター（2019.5.8）によれば、2019/20年度の生産量は、16.8百万トンである。

【需給動向】USDAによると、2019/20年度の消費量は、前年度より0.6%増加の103.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによると、2019/20年度の輸入量は、前年度より1.2%増加の87.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、4月輸入量は、7.6百万トンと前年度同月と比べ、0.7百万トン増加した。内訳は、ブラジル産5.8百万トン、米国産1.8百万トンとなっており、それぞれ、3月輸入量の2.8百万トン、1.5百万トンを上回っている。

大豆－中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	15.9	17.0 (14.4)	—	6.9
消費量	106.3	103.1	103.7 (…)	—	0.6
うち搾油用	90.0	86.0	86.0 (…)	—	—
輸 出 量	0.13	0.13	0.13 (…)	—	—
輸 入 量	94.1	86.0	87.0 (…)	—	1.2
期末在庫量	23.5	22.2	22.4 (…)	—	0.8
期末在庫率	22.1%	21.5%	21.5% (…)	—	0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.60	8.25	9.10 (8.15)	—	10.3
単収(t/ha)	1.80	1.84	1.81 (2.02)	—	▲ 1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(17 May 2019)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月			
EU	19年7月～20年6月			
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月			
ブラジル		20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
アルゼンチン		20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド			19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年5月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805)
--